



# バッハの森通信

第150号  
2021年  
1月20日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail: [info@bach.or.jp](mailto:info@bach.or.jp)

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

## 命を信じ、希望を捨てず、 皆で助け合うこと

### コロナ禍と向き合うには

「新年おめでとうございます」と、新年のご挨拶をしながら、果たして今年は目出度い年になるのかなど不安を覚えたのは私だけでしょうか。いつになったら新型コロナ・ウィルスの感染拡大が止まるのか予測がつかず、重苦しい雰囲気覆われたまま、世界中が新年を迎えました。

\* \* \*

今なお日々増えるウィルス感染者を、献身的に看護しておられる医療関係者には、本当に敬意を覚え、感謝するしかありません。また医学的研究が進み、数種類のワクチンも造られ、世界各地でその接種も始まっているようですが、全く新しいウィルスに対応する十分な時間がないまま、その安全性も有効性も未確認です。ワクチンについては、当然、私たち一般人は、良い結果を待つだけです。

それでも、コロナ禍と向き合って生きて行かなければならない以上、どうすればいいか、それぞれの事情に合わせて考えなければなりません。私も少々考えてみて次の言葉を思い出しました。「今は一部分しか分からないことが、はっきり見えるときが来る。そのとき存続しているのは、信仰と希望と愛である」。これは新約聖書にある有名な言葉ですが、宗教的理解にとらわれないで、より広く一般的に解釈してみました。

まず「信仰」ですが、この言葉こそ一般には「神様を信じる」という宗教的な意味で理解されています。しかし、ここで私が考える「信仰」は「自分の命を信じる」ことです。何も今更「信じなくても」自分に命があることは分かっているとされるで

しょう。確かに普段、私たちは自分の命の存続をわざわざ信じる必要を感じません。命があるのは「自然現象」だからです。しかし、コロナ・ウィルスに感染する危険が生じたとき、或いは、不幸にも感染してしまったとき、「自分の命を守る」という強い意志を持たなければ生きていけません。このような意志は、自分の命が単に自然現象ではないと「信じる」ことから始まるのではないのでしょうか。

「希望」とは、命を守るためには、その方法が必ず見つかるはずだ、という望みを失わないことです。コロナ問題については、先ず医学的解決方法が探し求められています。しかし、それが行き詰まったとき、どれほど解決の可能性がうすく見えても希望を捨てないことです。希望を捨てたらすべては終わりなのです。

「愛」とは、皆で助け合うことです。確かに今は、「水ぎわ対策」として、各国が国境を封鎖し、コロナ・ウィルスが自分の国や地域に入ることを防いでいます。それはそれで正しい対策ですが、経済的に貧しい国々や地域を含めて、現在の世界は完全に一つに繋がっていますから、最終的には、全世界からコロナ・ウィルスを除去しなければ、またいつパンデミックが始まっても不思議ではないのです。コロナ・ウィルスによるパンデミックは、誰も自分たちだけで生き残ることはできない世界に、私たちは生きていることを教えてくれたと思います。

\* \* \*

去年一年、世界は新型コロナ・ウィルスに悩まされ、バッハの森も大きな影響を受けました。しかし、全く新しい活動も始まり、結局、生産的な一年になりました。ただ残念ながら年の初めに二度目の緊急事態宣言が発出される有様です。この状況下に、気を引き締め、希望を失わず、医療とは別の次元で、「命を守る」バッハの森の活動を続けていきたいと願っています。喜びの歌を楽しむ私たちの活動に、さらに多くの皆様が参加してくださることをお待ちしております。(石田友雄)

## 天の王国を地上に実現するために 天から来た人の新しい生き方

\*このメディタツィオは、2020年12月13日に開かれたクリスマス・コンサートで朗読した原稿を少々修正拡大した文章です。

### 教義となった受胎告知

ルカによる福音書の降誕物語によると、天使ガブリエルがナザレの処女(朴)マリアに現れ、「貴女は神様からお恵みをいただいたので身籠もり、男の子を生みます。その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になります」と告げました。驚いたマリアが、「どうしてそのようなことがあるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに」と答えると、天使が「聖霊が貴女に降り、いと高き方の力が貴女を覆います。神様にできないことは何一つありません」と言うので、「私は主の下女(ハツメ)です。お言葉どおりこの身になりますように」とマリアは答えました。有名な受胎告知の物語です(1章26～38節)。

同様に、マタイによる福音書も、マリアが聖霊によって身籠もったことを、天使が彼女の許婚のヨセフに知らせます(1章18～25節)。イエス・キリスト誕生のおおよそ300年後にニケアで開かれた最初の教会会議で教会は、「イエス・キリストは、私たち人間のために、私たちの救いのために天より降った。彼は聖霊によって肉となり、処女マリアから生まれ、人間になった」とこれら福音書の伝承通りに信条を定めました。こうして、イエス・キリストは聖霊によって身籠もった処女マリアが生んだ人であり、同時に父なる神の独り息子として父なる神と本質が等しい神であるという信仰告白が、キリスト教の正統な教義として成立し、今日まで伝えられてきたのです。

### 受胎告知はファンタジーか

しかし、イエス・キリストは「天から降った」、或いは「聖霊によって身籠もった処女マリアから生まれた」、或いは「父なる神と等しい本質の神であり人である」というような、2000年前の人たちのミステリアスな言葉を、私たち21世紀の人間は、どのように理解したらいいのでしょうか。例えば、太陽が地球の周りを回っているのではなく、地球が太陽の廻りを回っているという地動説は現代人の常識です。しかし、16世紀にコペルニクス、17世紀にガリレオが証明するまで、人々は天動説を信じていました。では私たちは、イエス・キリストの誕生に関するこれら聖書が伝える言葉を、昔の人たちのファンタジーとして済ますことができるのでしょうか。

まず、ルカが語り、マタイが支持する受胎告知について、新約聖書にある他の文章を書いた人々が何を考えていたのか調べてみましょう。ヨハネによる福音書によると、イエス・キリストは、世界の初めに存在した神である「言葉」が、肉となって私たちの間に宿った父なる神の独り息子です(1章1～18節)。マルコによる福音書は、宣教活動を始める前のイエスに全く関心がありません。「神の息子イエス・キリストの福音の初め」という一言で語り始めると、イエスの宣教活動の準備をした洗礼者ヨハネの活動と、彼がイエスに洗礼を授けたことを報告し、洗礼を受けたイエスに聖霊が降ると「お前は私の愛する息子」という声が天から聞こえたと語ります(1章1～11節)。他方、パウロはローマの信徒への手紙で「御子は肉によればダビデの子孫、聖霊によれば死者の中から復活して神の息子に定められた」と言います(1章3,4節)。このようにルカとマタイ以外、処女マリアが聖霊によって身籠もり、イエス・キリストを生んだとは誰も言いません。

しかも、イエスがいつ「神の息子」になったのか、それぞれ違う説明をします。ヨハネは世界の初めから、ルカとマタイは受胎告知から、マルコは洗礼を受けたときから、そしてパウロは復活したときからと語っているようです。このように、福音書もパウロも互いに違うことを語りますが、イエス・キリストが「神の息子」であるという点では一致しています。ですから、これら1世紀後半に著作された諸文書は、細部では意見が相違していても、ナザレのイエスはギリシャ語で「キリスト」、ヘブライ語で「メシア」であるという信仰で一致する人々が書き残した文章です。まだ統一された「クレド」(信仰告白)が成立する前に、各地で生き生きと活動していたキリスト教徒の姿を伝えていると思われまます。そうすると、受胎告知の物語の主要なメッセージは、一般にクローズアップされてきた、処女マリアが処女であったということとは少々違うのではないかと、思われてくるのです。

### 天の王国の新しい生き方

では、最初のキリスト教徒たちは、何に基づいて、ナザレのイエスは「キリスト、すなわち、メシア」、或いは「神の独り息子」であると信じたのでしょうか。ナザレのイエスの言葉や活動は、旧約聖書が伝えるメシア預言の成就である、という説明が新約聖書に多数あります。例えば、イエスの十字架上の死を、過越の小羊の犠牲になぞらえて解釈し、彼を「神の小羊」と呼びます。しかし、このように聖書を解釈して説明するようになる前に、イエスの直弟子たちを感動させたイエスの教えと行動があったのではないのでしょうか。

イエスは、彼の目標をはっきりと人々に示しました。彼が宣教活動を始めたときのスローガンは、「悔い改めよ、天の王国、すなわち、神の王国が近づいたから」です(マタイによる福音書4章17節、マルコによる福音書1章15節)。ここからも分かるように、彼のテーマは「天の王国」すなわち「神が王として支配する

王国」でした。ですから「幸いだ、貧しい人々は。神の王国はお前たちのものである」（ルカによる福音書 6章 20節）、或いは「敵を愛せ、そうすれば、お前たちは天の父の子となる」（マタイによる福音書 5章 44, 45節）というような、地上の考え方とは真逆な天の王国の生き方を教えました。さらに「ぶどう園の労働者の譬え」（マタイによる福音書 20章 1～26節）、「放蕩息子の譬え」（ルカによる福音書 15章 11～32節）など、多くの譬え話によって、天の王国の王である神が、いかに慈しみ深い方であるか説明しました。

イエスが教えた「主の祈り」では、「天におられる私たちの父」に、「あなたの王国が（地上に）来ますように。あなたの御意思（ニコ）が実現しますように、天におけるように地上でも」と祈ります（マタイによる福音書 6章 9, 10節）。この祈りから、イエスにとって、「天」が架空の場所でなかったことが明らかになります。そのまま地上で実現することを願う王国なので、すから。しかも、このような祈りを捧げる者は、自分自身が天の王国の生き方を守らなければならない、と教えました。例えば、「天の父が慈しみ深いように、お前たちも慈しみ深い者になれ」（ルカによる福音書 6章 36節）、或いは「天の父が完全であられるように、お前たちも完全な者になれ」（マタイによる福音書 5章 48節）と教えたのです。これらの教えを聞いた人々はびっくりしたはずですが。

### 神のように慈しみ深い者になれ

なぜかと言うと、イエスとその弟子たちが属していた厳格な一神教文化であるヘブライズム（聖書の思想）では、私たち日本人が属す神々と人間の区別が曖昧な多神教文化とは違って、人間と神は峻別されているからです。例えば、日本では、菅原道真は天満宮に祭られて天神様になり、徳川家康は東照大権現として日光の東照宮に祭られています。これら古代の偉人でなくても、従軍して国のために戦死した人々は英霊として靖国神社に祭られています。これに対して、ヘブライズムでは、人間は神に造られた存在、すなわち、被造物の一つであって、創造者である神になることは絶対にありえないことなのです。ですから、勿論、イエスは、神になれ、と教えたわけではありません。「神と同じような」「慈しみ深い」「完全な者」になれ、と教えたのです。そうすれば、初めて天の王国が地上に実現する、と考えていたからです。実際、彼は病人を癒やし、疎外されている人を受け入れ、悲しむ者を慰めて、彼の周囲に天の王国を実現していました。

イエスの活動はほんの数年間のことだったようですが、彼の周囲には多数の民衆が集まり、彼らの間に、彼こそ選民イスラエルが長い間待ち望んでいたメシアではないだろうか、という期待が高まりだすと、当時、ユダヤを支配していた人々は、自分たちの権威が脅かされることを恐れ、社会秩序を乱す者としてイエスを告発し逮捕しました。エルサレム神殿の大祭司、長老たちなどの最高法院の議員が集まり、夜を徹し

てイエスを尋問しましたが、彼が何も言わないので、遂に大祭司が「お前は神の息子なのか」と訊ねると、「そうだ」とイエスが答えました。天の父の御意志（ニコ）を地上で実現することを目指す者だ、という意味です。しかし、大祭司が「この男は神を冒瀆した。諸君、聞いただろう」と言うと、全員が「死刑だ」と叫びました（マタイによる福音書 28章 62～66節）。神様と同じような「慈しみ深い」「完全な者」になれというイエスの教えが神を冒瀆している、と考えていた人々ですから、彼らが「死刑だ」と叫んだのは当然でした。

### 彼は天から来た人

その後、ローマ人の裁判でも死刑の判決を受け、十字架上で絶命したイエスの亡骸（キガ）は、隠れ弟子のユダヤ人有力者に葬られましたが、その三日後、週の初めの日、日曜日早朝に亡骸に香料を塗りに行った女弟子たちが、墓は空だったと報告すると、イエスは復活したという話が弟子たちの間に広まりました。復活したイエスに関する4福音書の物語は、降誕物語ほどではありませんが、とうてい一つに纏めることができない個々別々の報告になっています。確かなことは、イエスの死後、四散していた弟子たちが集まり、ナザレのイエスはメシア、すなわちキリストであったと言いだしたことです。彼らが各地でその信仰を数世代にわたって語り伝えた結果、1世紀末までに成立した諸々の文書が、後に新約聖書として纏められました。

これらの文書の中で、イエスはキリストであったという彼らの信仰を支えたのは、彼らが経験した出来事でした。それは、イエスが天の王国を地上に実現するために命がけで活動したという事実他にありません。そして、彼が天の王国についてこれほど詳しく知っていたのは何故か、しかも天の王国を地上で実現することに、何でそれほど熱心だったのか、という疑問に答えるための思索を続けた結果、そもそも彼が天から来た人だったからだ、という答えに到達したのです。処女マリアが聖霊によってイエス・キリストを身籠もったという伝承は、彼が天から来た人だったという答えを語るために生じた物語だったのではないのでしょうか。

\* \* \*

これから私たちは、イエス・キリストを身籠もったマリアが、感謝と喜びを歌ったカンティクル「わが魂は主を崇め」（マニフィカト）を演奏します。これは、2000年前に、天の王国を地上に実現しようとした人の存在に、感動した人々の思いを継承した音楽です。皆様に、その感動を味わう幸いが伝わることを願っております。（石田友雄）

秋のシーズンを通して  
コロナ禍と闘いつつ達成した

## 2020年・バッハの森 クリスマス・コンサート

### クワイア指揮者の感謝と感動と喜び

12月13日午後3時15分、友雄先生の挨拶が終わると、奏楽堂にハンドベルの鐘の音が静かに鳴り始め、重なり合い、高揚してくると、まるでセラフィムが神殿で「聖なるかな」と呼び交わす声のように奏楽堂一杯に響き渡り、2020年のクリスマス・コンサートが始まりました。

会衆は10名。演奏者は15名。新型コロナ・ウイルス感染対策のために、奏楽堂の全ての換気口とドアは開け放たれ、客席は2メートル間隔に置かれるという、いつもと違う会場の風景でした。

鐘の音が遠くなり余韻に浸っていると、由帆さんのオルガンがS. シャイトの「マニフィカト第9朗唱調」を歌い出しました。奏楽堂の壁に掛けてあるフラ・アンジェリコの受胎告知の絵を見ながらオルガンを聴いていると、無事この日を迎えることができたことにホッとすると同時に、クラスターを出さないように協力してくれたクワイア・メンバーとバッハの森の方々に対する感謝の想いが身体中から溢れてきました。

オルガン演奏が終わり、イザヤ書11章1節～5節が朗読され、処女マリアが身ごもった子、メシアの姿が描き出されると、O. デ・ラッスの「主を誉め称えよ、によるミサ」“Missa super Laudate Dominum”より「キリエ」と「グローリア」が歌われました。ここでもいつもと違う風景がありました。クワイアは互いに距離を取り、全員マスクをしたまま歌ったのです。これは毛糸の手袋をしてオルガンを弾くようなものですが、不自由な状況下でもクワイア最大限の力を発揮してくれました。

その後、今回のテーマであるマニフィカトのシーン（ルカによる福音書1章39～48節、56節）が朗読され、続いて「クレド」が歌われました。そして休憩15分。換気を十分にして、後半はハンドベル・クワイアの「主よ、わが喜び」“Jesu meiner Seelen Wonne”のコーラル演奏で始まりました。このコーラルの第6節、「幸いなるかな、われ主を得たり」“Wohl mir, daß ich Jesum habe”は、身ごもったマリアが身重のエリザベトを訪問したとき、マリアの挨拶を聞いたエリザベトの胎内の子が喜んで踊った時の、あの有名なカンタータ（BWV 147/6）の歌詞です。私は会衆とともに、声は小さくとも気持ちは

高らかに、このコーラルを歌いました。この後に友雄先生のメディタツィオが続きました。

4月の自粛期間中、友雄先生はマニフィカトについて、メーリングリストを通じてクワイア・メンバーに一つ一つ説明されてきました。自粛後もミニ講義は続きましたが、今回のメディタツィオは、マニフィカトを起点に、ミサの「クレド」の意味を通し、さらにはナザレのイエスの教えと生き方にまで及ぶ深いものでした。私は聞いていくうちに心が熱くなり、その高ぶる気持ちのままクワイアとオルガンによる、マリアのカンティクルによるカンタータ「私の魂は主をあがめ」（BWV 10）の演奏に臨みました。第1曲は、カンティクル第1～2節で、今日のコンサートの最初のオルガン曲と同じ第9朗唱調です。第7、8節を朗唱した後、オルガンがカンタータ第5曲「主は憐れみを忘れず、その僕（シハ）イスラエルを助け起こしたもう」のバッハ自身による編曲

（BWV 648）を演奏しました。その後で合唱が終曲の頌栄（BWV 10/7）を歌いました。頌栄の歌詞には、ニケア公会議時の三位一体の論争が反映していることも「コーラルを歌おう」で学んだばかりでしたので、私はキリスト教文化の奥深さに改めて想いを寄せてクワイアを指揮しました。また、それに応えてくれた熱いクワイアの演奏だったと思います。

最後のオルガン曲「マニフィカトによるフーガ：私の魂は主をあがめ」（BWV 733）の中音域から始まる第9朗唱調が高音域の天へと昇り、再び中音域でダブルカノンで聞こえ始めると、まるで天と地が呼応しあっているようでした。続いて、ペダルに第9朗唱調の全節が現れます。それは、メディタツィオで語られた通り、天の王国が地上に現れ平和がもたらされる様子を描いているようで、感動的でした。これこそがナザレのイエスが命がけの行動により「御意志（ニココ）が天におけるが如く地にも行われんことを」と願う様子を、圧倒的な音楽で示そうとした世界だと思いました。こうした感動に包まれた中、再び鐘が鳴り響き、2020年のクリスマスは終わりました。

すでに申しました通り、今年のクリスマス・コンサートが無事迎えられたのは、バッハの森の皆様と私の家族の協力のおかげです。コロナ・ウイルスの感染が世界中、そして日本でもさらに広がるときに、クワイアの練習を続けるべきか、中止すべきか悩み続けた秋のシーズンでしたが、バッハの森の人たちが互いに思いやり実現した世界は、私にとっては、正に天が地上に現れたもののように思われました。心より感謝申し上げます。綱渡りはまだまだ続きますが、コロナ禍がなるべく早く収束しますことを心よりお祈りしております。（比留間恵）

\* \* \*

## 11月29日に開かれた オルガン・ライブ & トーク

### この世で見るべき真善美の世界

今日は大晦日。今は午前4時。風がうなるゴースという音で目が覚めました。いつもなら三重にある主人の実家で賑やかに年を越すのが我が家の恒例となっていますが、今年はいよいよ勝手に変わります。どこにも遠出せず、親戚や友人と楽しく食卓を囲むこともせず、ひたすらステイホーム。コロナの脅威に世界中が翻弄された2020年。窓の外で不穏な音を立てて吹くさぶ北風が、この一年の不安を象徴しているようでした。

この不安があったからでしょう。大都会、東京で人生に先の見えない不安を抱えていた学生時代を思い出しました。鮮明に覚えていることに、教育学が専門の齊藤孝先生の講義があります。あれから20年。ふと齊藤先生のご著書を図書館で見つけて手に取りました。

その著書の中に「この世で見るべきもの」というくだりがあり、それは人生を豊かにする「真善美」とであると述べられていました。「真善美」とは何か、ネットで検索してみると「カントが・・・」と余りにも難しいことが書かれていますので、それはさておき、齊藤先生の解説によると「真」とは学問が追究してきた価値、「善」とは宗教が目指すような道徳や倫理、「美」とは美術や音楽が追求している芸術上の目標ということです。このとき、11月29日にバッハの森で開かれた「オルガン・ライブ & トーク」を聴いたばかりでしたので、これこそまさに「真善美」ではないか、と膝を打つ思いでした。

この「オルガン・ライブ & トーク」は、宮本とも子さんのオルガン演奏を、友雄先生の解説を聞きながら進めるプログラムでした。ハンドベルの点鐘に続いて、バッハのオルガン曲「さあ来てください、諸国民の救い主よ」(BWV 659)で開幕、救い主が近づいて来る様子を低音で表す厳かな「歩み」に聴き入りました。続いて友雄先生のお話。一般に「異邦人の救い主」と翻訳される言葉を敢えて「諸国民の救い主」と訳した理由、「来てください」という願いに籠められた初代教会の人々の思いなどが、プログラムと共に一人一人に配られた原稿をゆっくり読みながら解説していただきましたが、その中核となる感動をとらえようとすると、非常に集中力を要します。頭をフル回転しなければなりません。長年にわたり学問を追究してこられた友雄先生のお話は、これまでも何度も聞いてきましたが、やっぱり難しい！そして面白い！お客様の中にはバッハの森に初めて来た小学生の子どももいましたが、きっと幼いなりに何か感じるものはあるはずと、その子の背中を見守りました。

次の曲は「私の魂は主をあがめ」(BWV 648)で

す。「憐れみ」のテーマが天から降り注ぐように、ペダルや手鍵盤で繰り返し演奏されます。とも子さんの演奏には本当に言葉が聞こえてくるような瞬間があり、優しく語り出します。それを聴いていると「憐れみ」とは何だろう、世の罪を負い十字架上で息絶えた憐れみ深い“彼”の生き様とは何だろうと、倫理的、道徳的なことを問われているような気持ちになりました。

終盤に「装え、おお愛する魂よ」(BWV 654)が演奏されました。大きな愛情に包まれたような、深い慈悲深い手をさし伸べられたような、何と表現したらいいかわからない、その美しい響きに心が締め付けられました。舞台は喜び溢れる天の王国の婚宴、しかし花婿は“十字架にかけられて血を流し、人々を罪の奴隷から救い出した神の小羊”であるという友雄先生の解説。感動の原点となる美しさが、ここにあるかのような不思議な思いに浸りました。こうして、友雄先生と宮本とも子さんが作り出したバッハの音楽の深淵な世界は、「この世で見るべきもの」である「真善美」の世界に間違いないと私は感じました。

今回はコロナ禍の下での開催で、しかも直前に、つくば市を含むいくつかの市町村に対して「不要不急の外出自粛要請」が茨城県知事から出される始末でした。オルガニストのとも子さんは、早くからコロナ対策についても様々な準備をしてくださいましたし、友雄先生は子どもでも分かるようにと苦心して原稿を用意していただきました。その他、いつものことですが、バッハの森の皆さんが、「この世で見るべきもの」を生み出すために情熱を傾け、骨身を削ってこのプログラムをやり遂げてくださいました。そのエネルギーに敬服し、感謝の気持ちを新たに、コロナに明け暮れた一年を締め括る大晦日となりました。(別所香苗)



「さあ来てください、諸国民の救い主よ」  
“Nun komm, der Heiden Heiland”

## 11月15日に開かれた 楽器探検ツアー & ミニコンサート

小・中学生を対象に、バッハの森にある楽器の見学会を開きました。つくば市とその周辺の小・中学校にチラシを配布して参加者を募集したところ、子どもたち15名、その保護者12名の方々の申し込みがありました。子どもたちを学年によって5名づつ3組に分け、4つの鍵盤楽器を3人の講師が説明して演奏する3箇所を、各組が次々と回るツアーをしました。以下は、講師をしてくださった皆さんの報告です。

### イタリアオルガン、クラヴィコード・クラス 一期一会の出会いになることを願い

昨秋、11月15日にバッハの森で開かれた「楽器探検ツアー & ミニコンサート」のチラシを手にとった方々は、このチラシに紹介されている、歴史的イタリアオルガンとクラヴィコードの二つの楽器が、今バッハの森に「あること」に何の不思議も感じなかったでしょう。一方で、私にとっては、1974年の米国ボストンでのクラヴィコードとの出会い、そして1995年のイタリヤ・ピストイアでのオルガンとの奇跡的な出会いがなければ、あり得なかったこと、と振り返る良い機会となりました。

日本語には、一期一会という素晴らしい言葉がありますが、まさに一瞬の出会いからのみ導かれ得る事柄の積み重ねによって、私のクラヴィコード暦は45年となり、イタリアオルガンが日本に合法的に上陸して25年が経とうとしています。

イタリアオルガン・プロジェクトの時は偶然にも、バチカン日本大使、イタリア文化会館館長、ローマのグレゴリア大学長、そして放棄されていた楽器に一筋の音楽の光を見つけられたピストイア市立マベリーニ音楽院院長との縁があり、皆様の強力な応援があったからこそ実現したのでした。また1995年の9月には、第2回国際クラヴィコード・シンポジウムがイタリアのマニアーノで企画され、そこでの演奏のためにイタリア旅行を計画しておりました。イタリアオルガンの購入を決断する前にこの楽器とゆっくり付き合うことができたのも、この上ない幸運でした。

今回、バッハの森で開かれた楽器探検ツアーに参加されたお子さんたちに、この楽器見学会はほんの一瞬の出来事だったかもしれません。しかしながら、あのひと時がきっと未来への足掛かりとなる時間であったことを信じております。

何よりも、バッハの森の皆様が、準備に準備を重ねたうえで、マスク越しにとびっきり素敵な「おもてなし」をしてくださいました。心から感謝を申し上げます。  
(宮本とも子)



イタリアオルガン、クラヴィコード・クラス

### パイプオルガン・クラス 楽器の仕組み、音色の紹介と演奏

以前にも、鴨川さんと子ども向けの楽器紹介イベントを開いたことがあります。今回は宮本とも子先生にイタリアオルガンとクラヴィコードのご紹介もいただいて会場を3カ所も回るツアーになりました。

今回、本当は皆様にオルガンに触っていただきたかったのですが、感染症拡大防止のため見送りました。その代わりに、スクリーンを設置して演奏台の様子を写す試みをしました。内容は、(1)オルガンの仕組みの説明、(2)音色の紹介、(3)曲の演奏、という形で進めました。(1)は絵入りの資料を用い、(2)はオルガンのストップ表に各ストップの説明を書き入れたものを配り、(3)は曲の楽譜のコピーと、どの箇所でもどの音色を使用しているかの一覧を差し上げ、スクリーンで私が演奏する姿を見ながら聴いていただきました。

小学1、2年生には難しかったかもしれませんが、皆さんとても静かに聴いてくださり、こちらでも大変勉強になりました。今日、参加した子どもたちが、またオルガンを聴きたい、今度は弾いてみたい、などと思うきっかけになったら嬉しいです。

企画と準備をしたうえ、当日、スクリーンで演奏を映し出してくださったり、子どもたちを誘導してくださったり、お力を尽くしてくださったバッハの森の皆様に変な感謝しております。有り難うございました。  
(鈴木由帆)



パイプオルガン・クラス

## チェンバロ・クラス

### 音を聴き、鍵盤の仕組みを紹介、演奏と試奏

バッハの森のチェンバロは、日本におけるチェンバロ製作の第一人者である故・堀栄蔵氏が1977年に手掛けた18世紀フランス様式のもので、今回のチェンバロ・クラスは、この素晴らしい楽器に直接触れることを主目的とし、講師による説明はなるべく簡潔に済ませて子どもたちの試奏時間を少しでも多く確保するように務めました。

まずは以下(1)～(3)の順序でレジスターを変え、演奏しながら楽器の説明を行いました。

(1) 8フィートX1列(下鍵盤)で、J. S. バッハ「平均律第1巻よりハ長調プレリュード」チェンバロは響板側がよく響くため、響板の周りに集まって音を聴いてもらいました。同時に、ジャックレールを外してプクトルム(ジャックについている爪)が弦をはじく様子も観察できるようにしました。

(2) 8フィートX2列(上下の鍵盤を連動)で、L.C. ダカン「かっこう」鍵盤が見える位置に移動してもらい、上下の鍵盤を連動させる仕組みを説明しました。上鍵盤を奥へスライドして下鍵盤を弾くと自動的に上鍵盤も動く様子に、子どもたちから「お～っ」と声が上がりました。ピアノ学習者にはお馴染みの「かっこう」をチェンバロで聴くことに新鮮な驚きがあったようです。

(3) 8フィートX2列+4フィートで、J. P. ラモール「タンブラン」さらに4フィートを足して、華やかで迫力ある音色を聴いてもらいました。

続く試奏タイムでは、トップバッターを名乗り出る子がいなかったため、じゃんけんで順番を決めました。いざ自分の番になると、ピアノを弾ける子は張り切って腕前を披露してくれました。鍵盤楽器の経験がない子には片手で弾かせてみましたが、その子たちがそっと鍵盤に触れると驚くほど楽器が優しく響き、改めてタッチの重要性を実感しました。一人あたり僅か3分ほどの時間配分でしたが、さほどバタバタすることなく時間内に全員が試奏できてホッとしました。さすがに物足りなかった子たちからは、会が終わった後で「もう少し弾かせてくれませんか」と申し出がありました。

今回はチェンバロ入門として、子どもたちに良いプログラムを提供できたように思います。ただ、小学校低学年の子どもたちにはアニメなどを1曲ぐらい弾いてあげたらベターだったかもしれません。今後も同様の機会があれば、この経験をベースに「入門編」「初級編」「ワンポイント・アドバイス付き体験会」等々、さらに工夫を凝らしてみたいと思います。(鴨川華子)



チェンバロ・クラス

## 12月19日に開かれた バッハの森のクリスマス

コロナ禍に対応して、ご馳走なしのクリスマス会を開きました。子どもたちを中心にしたハンドベル・クラブ：リンガーズの演奏に始まり、「影絵でつづるクリスマス」の上映、「子どもたちのピニャータ割り」そして数人の方々の独唱、合唱、楽器の演奏などがあり、男声合唱：バッハの森フロッグクワイアがデビューしました。最後は「来たれ、友よ」を全員で斉唱、さらに「マニフィカト」を輪唱して楽しく終わりました。

\* \* \*

---

### 寄付者芳名 (2020. 10. 1～12. 31)

#### 一般寄付

下記の方々から計 106,050 円のご寄付をいただきました。

#### 建物維持積立寄付

下記の方々から計 257,000 円のご寄付をいただきました。

#### オルガン修理積立寄付

下記の方々から計 106,000 円のご寄付をいただきました。

#### 地上権積立寄付

下記の方々から計 100,000 円のご寄付をいただきました。

\*R: オンライン参加

10. 2, 3 水道修理 (管理棟、貸家) 猪又工業。  
**運営委員会** 参加者 7 名 (R 1)。  
 10. 7, 8, 12~15, 19~22, 24, 26, 27 **外壁塗装**  
 (資料館) 鈴木造園。  
 10. 23 **打ち合わせ (楽器探検ツアー)** 参加者 6 名。  
 10. 31 **相談会 (ZOOM 設定)** 参加者 2 名。  
 11. 7 **運営委員会** 参加者 5 名。  
 11. 13 **準備、清掃 (楽器探検ツアー)** 参加者 3 名。  
 11. 15 **楽器探検ツアー & ミニコンサート**  
 参加者 41 名 (小・中学生 15 名、保護者  
 12 名、講師 4 名、スタッフ 10 名)。  
 11. 27 **準備 (クリスマス)** 参加者 3 名。  
 11. 29 **オルガン・ライブ & トーク**  
 参加者 40 名 (一般 11 名、小学生 6 名、  
 会員 19 名、講師 2 名、スタッフ 2 名)。  
 12. 3 **準備 (クリスマス)** 参加者 5 名。  
 12. 5 **運営委員会** 参加者 6 名。  
 12. 9, 10 **準備 (クリスマス)** 参加者 1 名、3 名。  
 12. 12 **練習 (フロッグクワイア)** 参加者 4 名。  
 12. 13 **クリスマス・コンサート** 参加者 25 名  
 (会衆 10 名、出演者 15 名)。  
 12. 19 **会員のためのクリスマス会**  
 参加者 24 名 (大人 18 名、子ども 6 名)。  
 12. 26~2021. 1. 4 **冬季休館**

### J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

コラールを歌おう  
 カンタータ入門 (JSB)

10. 3 コラール「愛する神にのみ寄り頼む者を」。  
 オルガン: 安西文子。参加者 12 名。  
 10. 10 **第 467 回、三位一体後第 5 主日のカンター  
 タ「愛する神にのみ支配させる者は」**  
 (BWV 93); オルガン: J. S. バッハ「愛す  
 る神にのみ支配させる者は」(BWV 647)、  
 安西文子。参加者 7 名。  
 10. 17 コラール「御神の御業はことごとく善し」。  
 オルガン: 並木聡子。参加者 10 名。  
 10. 24 **第 468 回、三位一体後第 15 主日のカンタ  
 ータ「神がなさること、それは善くしてく  
 ださることです」**(BWV 99); オルガン: J.  
 P. ケルナー「神がなさること、それは善く  
 して下さることです」、並木聡子。参加者  
 8 名。  
 10. 31 コラール「主なるキリスト、神の御子は」。  
 オルガン: 別所香苗。参加者 10 名。  
 11. 7 **第 469 回、三位一体後第 18 主日のカンター  
 タ「主キリスト、神の独り子」**(BWV 96);  
 オルガン: J. S. バッハ「あなたの憐れみによ  
 って私たちを殺し」(BWV 22/5)、別所  
 香苗。参加者 9 名。  
 11. 14 コラール「起きよ、と呼ばわる」。オルガン:  
 海東俊恵。参加者 12 名。  
 11. 21 **第 470 回、三位一体後第 27 主日のカンター  
 タ「目覚めよ、と物見たちの声が私たちを呼  
 ぶ」**(BWV 140); 独唱とオルガン: J. S. バ

- ッハ「物見らの声に急ぎ立つ花嫁」(BWV  
 140/3)、比留間恵、海東俊恵。参加者 7 名。  
 11. 28 コラール「いざ来たれ、主よ」。オルガン:  
 並木聡子。参加者 9 名。  
 12. 5 **アドヴェント第 1 主日のカンタータ「さあ  
 来てください、諸国の人々の救い主よ」**  
 (BWV 61); オルガン: J. S. バッハ「さあ来  
 てください、諸国の人々の救い主よ」(BWV  
 599)、並木聡子。参加者 11 名。

### 学習コース

- バッハの森・クワイア (混声合唱)** 10. 3/12 名、  
 10. 10/13 名、10. 17/12 名、10. 24/12 名、  
 10. 31/14 名、11. 7/14 名、11. 14/14 名、  
 11. 21/12 名、11. 28/13 名、12. 5/16 名、  
 12. 12/14 名 (ゲネプロ)。  
**オルガン音楽研究会** 10. 9 /10 名、10. 23 /8 名、  
 11. 6 /11 名 (R 1)、11. 20 /12 名 (R 1)。  
**コラール研究会** 10. 9/9 名、10. 23/5 名、  
 11. 6 /9 名、11. 20 /7 名。  
**オルガン・クラヴィコード レッスン&クリニック**  
 11. 6/4 名、11. 20 /3 名。  
**オルガン・クラブ** 10. 2/3 名、10. 16/3 名、  
 10. 30/2 名。  
**ハンドベル・クワイア** 10. 17/5 名、10. 31/5 名、  
 11. 7/6 名、11. 14/6 名、12. 5/6 名、  
 12. 12/6 名。  
**声楽アンサンブル** 11. 21/5 名、11. 28/5 名、  
 12. 5/6 名、12. 12/6 名。  
**器楽アンサンブル** 11. 28/4 名、12. 5/2 名。  
**声楽レッスン** 12. 12/2 名。  
**聖書入門** 10. 3/5 名 (R 1)、10. 10/5 名 (R 2)、  
 10. 17/5 名 (R 2)、10. 24/6 名 (R 4)、10. 31  
 /8 名 (R 4)、11. 7/5 名 (R 3)、11. 14/7 名  
 (R 4)、11. 21/5 名 (R 3)、11. 28/7 名 (R 3)、  
 12. 5/11 名 (R 5)。  
**ハンドベル・リンガーズ (子どもと大人のハンドベ  
 ル・クラブ)** 10. 11/9 名、11. 15/8 名、12. 6/6 名、  
 12. 19/7 名。  
**オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習**  
 10. 1/1 名、10. 2/4 名、10. 3/2 名、10. 6 /2 名、  
 10. 7/1 名、10. 8/3 名、10. 9/2 名、10. 10/2 名、  
 10. 11/1 名、10. 13/1 名、10. 16/4 名、  
 10. 17/2 名、10. 20/1 名、10. 21/3 名、  
 10. 23/3 名、10. 24/2 名、10. 27/1 名、  
 10. 28/1 名、10. 29/1 名、10. 31/2 名、  
 11. 4/3 名、11. 6/4 名、11. 7/2 名、11. 10/2 名、  
 11. 13/3 名、11. 14/2 名、11. 17/1 名、  
 11. 18/3 名、11. 19/2 名、11. 20/3 名、  
 11. 21/2 名、11. 24/1 名、11. 26/3 名、  
 11. 27/1 名、11. 28/2 名、12. 1/1 名、12. 2/1 名、  
 12. 3/2 名、12. 4/3 名、12. 5/1 名、  
 12. 8/1 名、12. 9/1 名、12. 10/1 名、12. 11/1 名、  
 12. 16/1 名、12. 17/1 名、12. 18/1 名。